

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている				
	やや良く なっている	スーパー（店 長）	販売量の動き		・3か月前とは単純に比較できないが、今月の販売数量は12月の93.5%であったものの、前年比でみると103.2%と前年を上回っている。
		衣料品専門店 （店長）	来客数の動き		・季節的な面があるかもしれないが、途絶えていた客足が増加している。また単価も、去年と比べて上がってきている。
		住関連専門店 （従業員）	販売量の動き		・市で指定しているごみ袋を扱うようになってから販売量が増加している。
		観光型ホテル （経営者）	単価の動き		・宿泊単価が上昇している。また、宿泊に係わる料理や飲料などが緩やかに増収に転じてきている。一方、付帯収入の大部分を占める売店収入の一人当たり単価が減少傾向にある。
		観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き		・外国人客を中心に、宿泊客が前年比で二けた台の増加となっており、2か月連続での増加となっている。
		旅行代理店（従 業員）	来客数の動き		・愛知万博の影響で国内旅行が上向いている。海外への渡航数も徐々に増加している。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き		・愛知万博の予約や問合せが急増しており、本州方面への動きが好調に増加している。販売額も前年比で二けたを超える増加となっている。
		旅行代理店（従 業員）	来客数の動き		・春の旅行シーズンとなったことに加えて、愛知万博の影響で、客が少しづつ動き出してきているようにみえる。
		通信会社（企画 担当）	お客様の様子		・札幌都心部の不動産が動き始めている。入札価格等も上昇に転じている。これに伴ない新築マンション、オフィスビル建築の話題が出てきており、合わせて通信インフラの相談が増えてきている。
	美容室（経営 者）	お客様の様子		・春の新商品の売上が昨年より20%程増加している。	
	変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子		・依然として先行き不安感があるのか、購買は慎重な動きとなっている。また春物シーズンに入ってきているが、月末になっても降雪のみられる気候の影響もあって、なかなか購買につながらない。
		商店街（代表 者）	お客様の様子		・3月は春物の最需要期であり、春物の出足はそれほど悪くなかったが、その後は気温の低下や天候不安定の影響もあり、今一步、客の購買意欲が購買意欲がかきたてられていない。ただし、その分、冬物の最終処分、まだ防寒衣料が動いており、結果としてはほとんどといった状況となっている。
		商店街（代表 者）	販売量の動き		・まだ雪解けが進んでいないので、それほど変化がみられない。
		一般小売店 〔酒〕（経営	販売量の動き		・販売量については3か月前とほとんど変わっていない。下げ止まったのかという感じである。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子		・春物が本格的に動き出す月だが、いまだに降雪が続き、気温も低い、春物の出足が鈍い。特に男女とも服飾雑貨の動きに顕著に現れている。また少子化の影響で子供服や学生服が大幅なマイナスとなっている。しかしながら、店舗全体ではマイナス幅が小さく健闘している状況である。人の移動が多く、目的買いの多い月ではあるが、全体としては依然として厳しい状況からは抜け出していない。
		百貨店（売場主 任）	単価の動き		・商品アイテム別の売上をみると、例年より、スーツやコート等の重衣料の買上件数が非常に少なくなっている。スカートやパンツの上にカットソー、ブラウスなどを合わせた軽い感じのファッションが流行しているという影響もあるが、例年に比べて圧倒的に重衣料の売上が減少している。全体としては3か月前と変わらない状況である。
		百貨店（役員）	来客数の動き		・平年よりも積雪が多く、3月に入っても気温が上がらないなど、天候不順であり、来客数も前年を割り込んでいる。このため春物衣料品や自転車等を含めた季節商品の売上が前年比90～95%で推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客数は前年比102%と前年を上回っているが、販売点数が前年比97%と落ち込んでおり、客は入るが買わないという傾向が依然として続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・3月に公共工事が全くない状況であるため、特に工事関係者の動きがなく、客数に関しては横ばいが続いている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・この時期になると通常は売上が上向きになってくるのだが、これだけの降雪量があると人もなかなか歩いていない。上向こうとしているが、他の要因が邪魔をしており、売上もなかなか伸びてこないという状況である。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今月は天候が悪く、街中の人出も非常に少なかった。卒業や入学関連の商品も思ったように動いていない。天候に大いに左右された月である。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・最近、客は店を良く回っているようだ。一度ではすぐ買わない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・今年は例年のないほど雪が多く、こうした天候のせいか、客の動きが全くない。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・客の状況は予算を抑える形で、売上があまり伸びていない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売量が前年実績を上回るのに苦労している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・同業者とのタイアップによる「はしご酒企画」で普段なじみのない客も来店しており、相当なPRとなった。しかし全体としては、平日の動きはまだ厳しい。
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・3月の年度末を迎え、ランチは年齢層の高いビジネス男性客が減って、売上は前年比で20%のダウンとなった。ディナーは、売上こそ前年並みとなったが、コース料理の客が減少しており、客単価は前年比で20%低下している。個室は辛うじて前年並みとなった。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・昨年の12月から4か月連続して、客単価が前年実績を5%ほど下回っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・3月は年度末ということもあり、年間を通して12月に次いでタクシーの需要の多い月であるが、昨年と比べて利用者が減っており、売上も減っている。全体としては3か月前と変わらない状況である。
		観光名所（職員）	単価の動き	・客の購入意欲は非常に慎重である。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・引き続きモデルハウス等の来場者が少ないまま推移している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・半年間、販売量は低迷したままで、復調の兆しがみられない。悪い状況は変わっていない。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	単価の動き	・来街客の買物は低単価商品が中心であり、単価の増加が見込めない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客数は前年比91%と、雪解けの遅さもさることながら、北海道の小売業界の厳しさを物語っている。また、北海道の売上を前年比でみると、全国平均を2%下回っている。内訳では、食品のみ全国を上回るも、衣料品、住居用品、食品、専門店など他部門は厳しい状況となっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・依然として、客単価の減少がみられる。特に高単価商品の動向が非常に鈍くなってきている。前年比でみると、気温の上昇に伴い若干回復はしてきているが、依然として厳しい状況である。
		家電量販店（地区統括部長）	単価の動き	・薄型テレビやDVDレコーダーなど、デジタル家電の単価のダウンが止まらない。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・客の様子が変わってきている。価格調査的な客が増えており、話しかけられたくない様子が分かる。顧客にさせるのが難しい客が増えた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		観光型ホテル（経営者）	乗客数の動き	・前年に比べて、3月に入ってからの乗客数の動きが大分悪いようである。特に原因は特定できていないが、航空機の便数は変わっていないものの、機材の輸送能力が減っていることが乗客数の減少につながっている可能性がある。また愛知万博開催の影響も原因の一つと思われる。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・年度末を控え、客の動きは若干あるようだが、前年比では微減で推移している。	
		観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの輸送人員は前年比で5%程度減少している。	
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・先月同様、3月に入っても積雪が多く、中高年層の来街が多い商店街は極端に来街頻度が落ちている。商品別では春物衣料が各店とも前年割れとなっている。	
		スナック（経営者）	乗客数の動き	・毎年3月は歓送迎会や送別会で結構忙しくなるが、今年は前年度、前々年度と比べて歓送迎会、送別会が少なくなっている。特に役所を中心に少なくなっている。	
企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件の受注が増加している。	
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・事業の再編等の動きもあり、大手荷主の中には積極的な販売政策を出している会社もある。本州の景気回復、また中国の特需等の影響もあり、特に鉄鋼関係はフル生産状態に入っており、その関連会社にも波及が出てきている。ただ、今まで頑張ってきた企業の中で、ここにきて資金繰りに目どが立たなくなり、倒産する企業が出てきていることが一抹の不安材料である。	
	変わらない	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・外炭の石炭税が4月1日より増税となることから、駆け込み需要で大幅な増量となった。また、ビート糖やでん粉等の農産物も倉庫保管のピーク数量となっている。	
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・桜の開花が昨年よりもやや遅く、花見需要の盛り上がりがいまだみられない。ただし、今後はほぼ例年通りの気候で推移すると思われるので、全体としては変わらない。	
		食料品製造業（団体役員）	競争相手の様子	・昨年からの原料価格の高騰により、製品価格を改定して値上げを行ったところ、手取りが減少傾向にあり、業界全体に影響が及んでいる。また販売不振や契約満了のコンビニ店舗の閉店や看板変更による店舗入替えが多数見受けられる。	
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今月は年度末であったが、受注量等は例月とほとんど変化はみられなかった。悪くなっている様子もないので、変わらずといった印象である。	
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は低調である。公共投資の削減、観光客の減少などで関連業界は厳しい。また、例年以上の大雪で大型小売店などの客足も鈍っている。住宅業界は、札幌市内に限れば大型マンションなどの着工もあり、比較的堅調である。	
		その他サービス業[建設機械リース]（支店長）	受注量や販売量の動き	・前向きな設備投資の引き合いが増えてこない。	
		その他サービス業[建設機械リース]（営業担当）	受注量や販売量の動き	・建設受発注の活動に変化がみられない。	
		やや悪くなっている	その他企業[コンベンション担当]（従業員）	受注量や販売量の動き	・積雪が多かったため、まだ春、夏にかけての動きが悪い。
		悪くなっている			
雇用関連	良くなっている やや良くなっている				
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者は減少しているものの、新規求人は2か月連続で増加している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年と比較して、求人総数の増加が続いている。ただし就業地が管内である求人は微増傾向にとどまっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人情報数も多くなっている。就職情報誌が開催している就職合同説明会の実施回数も多く、企業の採用活動が活発になっている。また採用内定数も順調に伸びている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・中途採用のニーズは減っていないが、その採用基準は以前にも増して厳しく、なかなか採用に至らない。これは逆説的ではあるが、企業に余剰人員を置く余力がなく、正社員を即戦力として考え、業績に貢献してほしいという企業の渴望と思われ、業績がまだ回復しているとはいえない状況といえる。反面、正社員を補う格好になっているのが人材派遣利用の増加であり、全体としては3か月前と比べて変化がみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・地元のサービス業や小売業の求人広告件数に変化はみられない。ただ、本州方面の派遣請負業の求人広告件数は若干だが増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・企業では良い人材がいれば採用したいとの希望はあるが、欠員に対するの補充はあるものの、増員計画の対応は足が鈍い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・建設関係を中心に倒産が増えている。また市内中心部の空洞化が進み、駐車場ばかりが増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年と比較して6%減少しており、2か月連続で減少しているが、前年に進出した大型店の大量求人による反動である。しかし、これらの影響を差し引いた、求人の動向としては横ばいであるものの、建設業や製造業の落ち込みは大きく、依然として厳しい状況は続いている。
やや悪くなっている				
悪くなっている	-	-	-	